

2026 年 4 月 14 日

【SUPER GT 第 1 戦 / 岡山国際サーキット レポート】 グッドスマイル 初音ミク AMG が 4 位フィニッシュ

SUPER GT の 2026 シーズンが岡山国際サーキットで開幕した。約 1 か月前にここで行われた公式テストは、気温は 10 度前後と凍えるような寒さ。そこから一転、開幕戦の予選日と決勝日は春を超えて初夏の陽気で、各チームは一気に上昇した気温と路面温度への合わせこみがテーマの一つとなった。

予選は、この岡山がホームコースの UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI(片山義章選手/ニコラス・クルッテン選手)がヨコハマタイヤ勢最上位の 4 位。SUPER GT に 1 年ぶりの復帰となったクルッテン選手が Q1 を突破し、片山選手がそのフィードバックを受けてアジャストした車両で 4 番手タイムをたたき出した。公式練習 3 番手だったグッドスマイル 初音ミク AMG は 5 位。GT500 クラスは WedsSport BANDO GR Supra(国本雄資選手/阪口晴南選手)が 11 位で惜しくも Q2 進出を逃すことに。翌日の決勝に向けては 11 番グリッドを得た。



翌日の決勝レースも強い日差しの影響で路面温度がぐんぐんと上昇する中、82 週のレースがスタートした。前半スティントでは、4 番手スタートの UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI と 5 番手スタートのグッドスマイル 初音ミク AMG が接近。2 台は一旦後方の車両にかわされ一つずつポジションを落としていたが、その車両がドライブスルーペナルティで後退、再び順位を取り戻したところでのバトルとなった。22 周目、片山選手が駆る UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI に、片岡選手のグッドスマイル 初音ミク AMG がバックストレートで並びかけるとヘアピンコーナーでアウト側から切り込んでいき、続くリボルバーコーナーで完全に前に出た片岡選手が 4 番手にポジションアップ。その後、ピット作業の時間短縮のためタイヤの 2 本交換作戦に出たライバルに先行されたが、後半スティントを託された谷口選手が一気に詰め寄り逆転で 4 番手を取り戻した。一時は 3 番手にも迫り表彰台に手が届くかと思われたが、わずか 0.4 秒届かずチェッカー。ポディウム獲得とはならなかったものの、メンテナンスガレージを変更した初戦となるチームにとっては嬉しい 4 位フィニッシュとなった。14 番手スタートから、タイヤ 2 本交換で大きくポジションを上げた VENTENY Lamborghini GT3(小暮卓史選手/ダニール・クビアト選手)が 6 位、UNI-ROBO BLUEGRASS FERRARI が 9 位で、GT300 のヨコハマタイヤ勢は 3 台が入賞した。



GT500 では、国本選手がスタートを担当し、28 周と短いステイントで阪口選手につなぎ、12 位という結果。レース後半では後方から勢いよく迫るライバルとの攻防戦に注目が集まった。WedsSport BANDOH GR Supra の方が早くタイヤを交換しており、1 コーナーへの飛び込みでは相手の勢いに軍配が上がったが、クロスラインを取りポジションを奪還。最終的に開幕戦でのポイント獲得はなかったが、阪口選手の巧みな走りは会場を盛り上げた。

Driver's Voice

■谷口信輝選手 (グッドスマイル 初音ミク AMG)

【今回の成績 : GT300 クラス 4 位】

僕のステイントは長めで、終盤に 3 番手のクルマが近づいてきたときには一瞬タイヤをマネジメントすることも考えましたが、行けるところまで頑張ろうとフルプッシュしました。トップ 3 の顔ぶれを見ると、今回の自分たちには彼らを上回って勝てるだけの力はなかったかなと思いますが、予選位置よりもポジションを上げて 4 位フィニッシュというのはベストリザルトだと思っています。

■片岡龍也選手 (グッドスマイル 初音ミク AMG)

【今回の成績 : GT300 クラス 4 位】

練習の段階では自分たちにアドバンテージがあるように感じていたのですが、いざ決勝になると周りも強く、皆がほぼ同一ペースでしたね。その中で自分たちのパフォーマンスを最後まで維持することができ、新体制で迎えた開幕戦、その中でもヨコハマタイヤとこれまで積み上げてきたものがしっかりと確認できる内容でした、今シーズンも面白い戦いが期待できるかなと感じられた、自分たちのベストに近いレースができて良かったです。